

市区町村名	千葉県 千葉市	担当部署	広報広聴課
		電話番号	043-245-5294

1 取組事例名

ちばレポ (My City Report)
 ～ICT を活用した協働のまちづくり～

2 取組期間

平成 26 年 9 月～ ちばレポ運用
 平成 27 年 9 月～ 東京大学生産技術研究所と共同研究
 平成 28 年 11 月～ 東京大学生産技術研究所を中心とした他自治体との実証実験
 平成 31 年 3 月～ My City Report コンソーシアム共同運営 ※千葉市は同年 9 月からシステム利用開始

3 取組概要

- ・平成 26 年度から、道路損傷などの地域課題をスマホアプリを使って市民がレポートすることで、市民と市が課題を共有し、合理的・効率的な解決を目指す「ちばレポ」を運用している。
- ・平成 27 年度に東京大学生産技術研究所と「ちばレポ」に関する共同研究を行う。得られた成果を基に、複数の自治体の実証実験に参画し、「ちばレポ」をベースに、横展開しやすい仕組みや AI を活用した道路維持管理業務の高度化機能を組み込んだオープンソースベースによる次世代型市民協働プラットフォーム「My City Report(MCR)」を共同開発した。
- ・平成 31 年 3 月に MCR を共同運営するためのコンソーシアムを設立。「ちばレポ」と同様の仕組みを全国に展開している (R4.4.1 現在 28 自治体参加 (1 都 2 県 5 区 18 市 1 町 1 村))。

4 背景・目的

【背景】

- ・ **人口減少と少子高齢化**
 現在の人口は約 98 万人。将来的に減少に転じる見込み。
- ・ **地域コミュニティの希薄化**
 単身世帯の増加 (R3 年度末に平均世帯人員が 2.14 人)。
 町内自治会加入率は年々低下 (R3 年度末に 62.6%)。
- ・ **ICT (情報通信技術) の普及**
 インターネット利用率 83.4%、スマートフォン保有率 69.3% (R2 年) (情報通信白書より)
 市ホームページ閲覧者数の約 75%がスマートフォン・タブレットで閲覧

【目的】

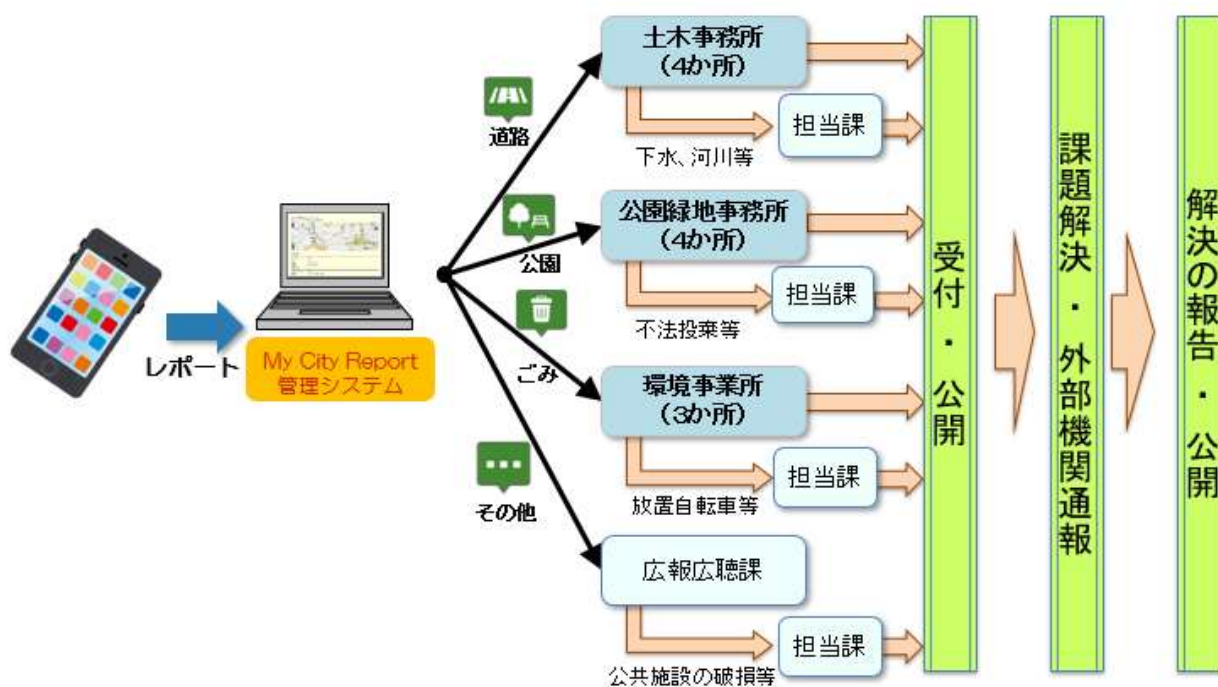
- ・ レポート投稿、課題解決への参加を通じ、自分のまちや行政への関心を高める。
- ・ 情報の一元管理や市民協働の実現による行政コストの改善。
- ・ ICT 行政サービスに慣れ親しんでいただくためのパイロットモデルとしての役割

5 取組の具体的な内容

・「ちばレポ」のコンセプト



・課題解決までの処理の流れ



・クローズドな情報をオープンに

これまでの地域課題 ⇒ クローズドな情報

通報した住民と受け取った行政担当だけが情報をやり取り



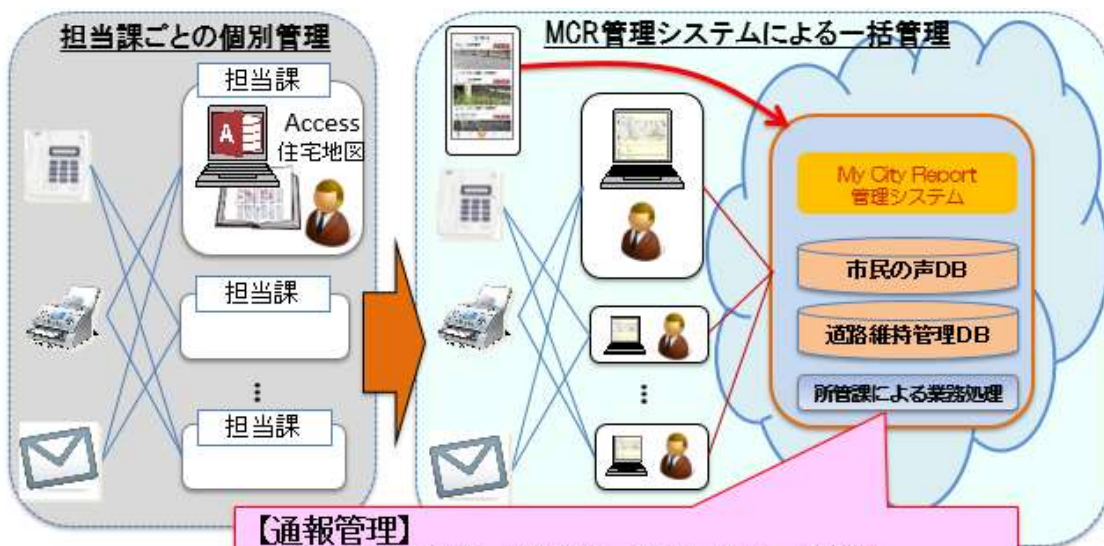
千葉市では1年間に
 道路関係 約1,200件
 公園関係 約2,500件

市民から通報・要望が寄せられています
 (件数は令和3年度の実績)

1. クローズドだった情報 ⇒ オープンになる地域課題



・行政運営の効率化



- 【通報管理】**
・個別案件とちいほ案件を対応完了まで一括管理
- 【対応管理】**
・案件への対応に要した材料、人役、車両を案件ごとに管理
- 【資材管理】**
・対応に必要な材料の在庫管理

・レポート機能

こまったレポート

まちで見つけた公共施設の不具合などの地域課題をレポートする機能
ベンチが壊れていて座れない、歩道のタイルがはがれている など

①歩道の段差
解決前



解決後



②集水樹の詰まり
解決前



解決後



③公園のベンチ破損
解決前



解決後



※令和4年4月より、LINE アプリを使ってより簡便にレポートできる機能を導入



画面イメージ



テーマレポート

市が投げかけたテーマに沿ってレポートする機能

課題発見・解決型テーマ（地域課題を集中して探索）→カーブミラー点検、街路灯不点など

話題発見・共有型テーマ（まちのトリビアで街を見直す契機に）→オススメスポットや景観など



かいけつレポート

まちで発見した地域課題を自主的に解決したことをレポートする機能
ゴミを拾ったよ、歩道の雑草を抜いたよ など

①公園のごみ拾い

解決前



解決後



②集水樹の掃除

解決前



解決後



③横断幕の修繕

解決前



解決後



サポーター活動

市民協働による解決活動を、システム上でイベントとして立上げ、参加者を募り、作業後に完了したことをレポートする機能

落書き消し、除草作業、ペンキ塗り など

①落書き消し

解決前



解決後



②除草作業

解決前



解決後



③落ち葉の清掃

解決前



解決後



・東京大学との共同研究

蓄積した「ちばレポ」のデータから価値ある情報を見つけ出し、地域課題の解決に寄与することを目的に、平成 27 年度に東京大学生産技術研究所と協定を締結し、「ちばレポデータの分析とその有効活用に関する共同研究」を実施。そこで得られた成果を基に、「ちばレポ」をベースとしつつも、さらに AI を活用した道路維持管理業務の高度化機能を組み込んだオープンソースベースの次世代型市民協働プラットフォーム「My City Report」を共同開発することとなった。

・ My City Report

「ちばレポ」のような取り組みを、全国どこの自治体でも簡単に、大きな負担なく開始できるようにすることを目的としたシステム。東京大学生産技術研究所、(同)Georepublic Japan、(一社)社会基盤情報流通推進協議会が主体となり、千葉市をはじめ、複数の自治体が参画して実証実験を行い、開発した。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> MCRの基本設計 プロトタイプ開発 職員向け実証 	<ul style="list-style-type: none"> MCRシステム構築 一部で実証実験 	<ul style="list-style-type: none"> MCRシステムの改良 継続的な実証(室蘭・沼津) 地域ワークショップ実施 	本格的に コンソーシアム 化!
道路 損傷検出	道路損傷画像の判定	<ul style="list-style-type: none"> 教師データ収集 道路損傷検出アプリの改良と実証 	<ul style="list-style-type: none"> 道路損傷検出アプリの改良と実証 道路管理者向けダッシュボード 	
参加自治体	検討会(3回実施) 千葉市、市原市、 室蘭市・足立区 + オブザーバー 4自治体	検討会(6回実施) 千葉市、室蘭市、沼津 市、足立区、墨田区 + オブザーバー4自治体	コンソーシアム 準備会(4回実施) 千葉市、室蘭市、沼津 市、東広島市、加賀市、 品川区、花巻市	

実証実験の流れ



➤ **MCRを共同運営するためのコンソーシアムを2019年3月に設立**
 4月からシステムを運用開始(千葉市は2019年9月から利用)

➤ **コンソーシアムの会員となることでMCRを利用できる**
 会費は人口規模別に設定(自治体規模に応じた負担を考慮)

➤ **MCRコンソーシアム参加団体(2022年4月現在)**
 岩手県花巻市、千葉市、東京都、港区、品川区、目黒区、大田区、葛飾区、国分寺市、国立市、
 福生市、多摩市、稲城市、神奈川県、石川県加賀市、能美市、山梨県富士河口湖町、
 長野県塩尻市、筑北村、静岡県富士市、愛知県みよし市、滋賀県大津市、高島市、
 兵庫県尼崎市、和歌山県、和歌山市、香川県高松市、広島県東広島市
 九州電力(株)、日本工営(株)
 ※DID(人口集中地区)カバー率…人口:28.17%、面積:18.39%
 (数値は2020年10月時点、MCR for Citizens利用自治体のみ)

➤ **コンソーシアムへの参加は随時募集中**



6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

・まちづくりに ICT を活用

進展する ICT（情報通信技術）を活用して、市民と行政の新しい関係を構築できるのではないかと考え、市民が行政へ参画するためのツールとして「ちばレポ」を構築した。

・アプリ上で対応状況を随時連絡し、双方向性を実現



レポートを寄せ付けました。現場を確認し、対応方法を検討いたします。しばらくお待ちください。 2018-03-27

調査の割れ補修が完了しました。完了した状況の写真を添付しましたのでご覧ください。 2018-03-28
今後も情報提供よろしくお願いたします。



現地住所

千葉市中央区蘇我1丁目2-1



・単なる通報ツールにとどまらない多様なレポート機能

こまったレポート・テーマレポートといった「市民と行政の新しいチャネル（情報の経路）」としての役割に加えて、かいけつレポート・サポーター活動といった、市民の方に課題解決に参加してもらうための機能を用意した。

7 取組の効果・費用

・市民意識の変化

レポート投稿、課題解決への参加を通じ、まちや行政への関心が高まった。

（利用者アンケートで約 73%が「まちを見る意識に変化があった」と回答）

・市民満足度の向上

24 時間受付の新たなチャネル提供による利便性向上、課題解決プロセスの可視化による行政活動の透明性・説明責任の確保

（利用者アンケートで約 97%が「ちばレポを良い仕組み」、約 74%が「市の対応に満足」と回答）

・全国の自治体への横展開

共同運営の MCR コンソーシアムに 28 自治体が参加(R4.4.1 時点)。

DID(人口集中地区)のカバー率…人口:約 3 割、面積:約 2 割

（全国の DID に対する、参加自治体の DID が占める割合）

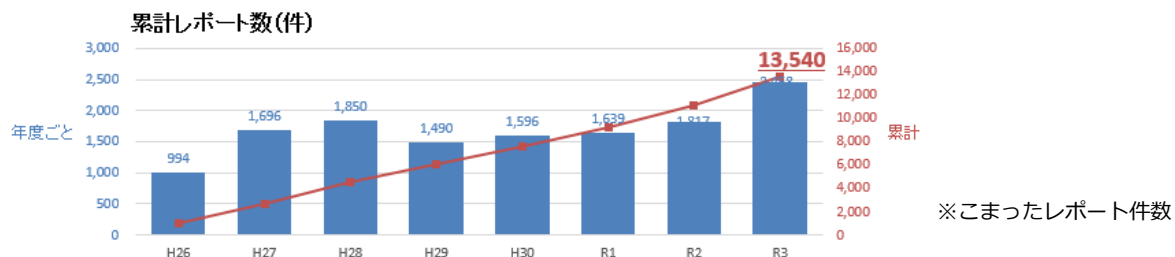
・共同運営によるコストダウン

人口規模に応じた会費設定。小規模自治体も導入しやすい。

【参考】千葉市(人口 100 万人以下):3,000 千円/年^(※) (R5~2,400 千円/年に変更) ^(※)オプション除く基本会費のみ

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

・レポート件数の減少



開始当初は増加傾向にあった各年度のレポート件数が、平成 29 年度に減少に転じた。その後、町内自治会等での「ちばレポ教室」の開催や、市内企業・大学等への積極的な PR により、近年はレポート件数が増加傾向にある。

9 今後の予定・構想

- 「ちばレポ」のさらなる活性化
 - ・市民認知度の向上と利用登録者の拡大を図る。
 - ・LINE アプリによる、より簡便なレポート開始（令和 4 年 4 月）
- 他自治体展開
 - ・ My City Report のさらなる全国的な普及を目指す。
※令和 4 年 4 月 1 日現在、28 自治体が参加
DID（人口集中地区）カバー率…人口:約 3 割、面積:約 2 割

10 他団体へのアドバイス

人口減少・地域コミュニティの希薄化など、自治体を取りまく環境が大きく変化し、市民協働の必要性が増しています。「ちばレポ」のような取り組みにより、自治体と住民の協働を実現しましょう。

11 取組について記載したホームページ

- ・ちばレポ（千葉市ホームページ）
<https://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/kohokocho/chibarepo.html>
- ・ My City Report（MCR コンソーシアムホームページ）
<https://www.mycityreport.jp/>